

公益財団法人 日本エステティック研究財団の概要 Japan Esthétique Research Foundation

1. 設立年月日

平成4年5月22日厚生大臣(現厚生労働大臣)許可により設立され、公益法人制度改革に伴い、内閣総理大臣の移行認定を受け、平成25年4月1日公益財団法人へ移行し現在に至る。

2. 設立趣旨

エステティックの国民生活に与える安全性や経営倫理等の影響の増大に鑑み、エステティック業界の健全化に向けて、エステティックに関する調査研究を行うとともに、エステティックの業務の適正化及び技能の改善向上を図ることにより、公衆衛生の向上及び消費者の利益の保護に寄与することを目的に設立されました。

3. 事業

- ①エステティックの安全性、有効性及び技能改善等に係る調査研究に関する事業
- ②エステティックの業務の適正化に関する事業
- ③エステティックの技能向上のための研修に関する事業
- ④エステティックに係る消費者の苦情処理に関する事業
- ⑤エステティックに関する資料及び情報の収集に関する事業
- ⑥その他、本財団の目的を達成するために必要な事業

4. 発行書籍

- 「エステティックサービス契約書」(1セット3枚複写50組)
- 「解説エステティックサービスの契約I」(付 特定商取引法・契約書約款)
- 「これだけは知っておきたい!~エステティックのコンプライアンス」(平成30年3月発行)
- 「改訂版 エステティックの衛生基準」(平成26年10月発行)
- 「エステティックサロンの衛生管理ハンドブック」(平成26年1月発行)
- 「あってはならない健康被害」(平成28年6月発行)

5. 事務局

〒105-0003 東京都港区西新橋1-23-10 南和ビル4F
TEL 03-3501-5721 FAX 03-3501-6982
URL <http://www.jerf.or.jp>

第13回エステティック学術会議 抄録集

お客様が満足する エステティック

~知識がつくるエステティシヤンの品格~

開催日時：令和元年9月24日(火)13:00~

開催会場：女性就業支援センターホール

主催 公益財団法人日本エステティック研究財団
後援 厚生労働省

協力
全国理容生活衛生同業組合連合会 全日本美容業生活衛生同業組合連合会
一般社団法人日本エステティック協会 一般社団法人日本エステティック業協会

第13回エステティック学会 Program & Time Schedule

13:00～ ◆開会あいさつ

第13回エステティック学会会長 久米 健市

◆来賓あいさつ

厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生課長

13:10～ ◆芝山みよか記念教育講演

「エステティシヤンの格を高める必須知識」

関東 裕美 氏 公益財団法人日本エステティック研究財団理事長

14:00～ ◆特別講演

「自分を守る お客様を守る衛生管理」

～「エステティックの衛生基準」改訂のポイント～

館田 一博 氏 東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授

14:30～ ◆休憩

14:45～ ◆特別講演

「リラクゼーション効果の検証結果について」

塚田 弘行 氏 A.C.E.ビューティーサイエンス研究所 代表

15:15～ ◆パネルディスカッション

「いま、知っておくべき知識とは？」～高齢化、国際化、多様化の中で～

ファシリテーター 久米 健市 氏 一般社団法人日本エステティック協会理事長

パネラー 郷 和子 氏 エステティックバービー代表

日本エステティック協会副理事長

興梠 文香 氏 株式会社スリムビューティハウス／営業部 マネージャー

三谷 麗奈 氏 技能五輪世界二位銀メダリスト／R-BlooM代表

16:35～ ◆閉会あいさつ

公益財団法人日本エステティック研究財団副理事長 中井 一士

学会参加者の皆様へ お願い

1. 携帯電話は、電源をお切りになるか、マナーモードでご使用ください。また、会場内での通話は、他の参加者のご迷惑となりますので、ご使用の際は会場の外でお願いいたします。
2. 講演中の撮影並びに録音は、一切お断りさせていただきます。
3. 会場内での水分補給以外のご飲食は、ご遠慮いただきますようお願いいたします。

以上、学会のスムーズな進行にご協力いただきますようよろしくお願い申し上げます。

ごあいさつ

第13回 エステティック学会

会長 久米 健市



この度は、厚生労働省をはじめ、全日本美容業生活衛生同業組合連合会、全国理容生活衛生同業組合連合会、一般社団法人日本エステティック業協会の皆さまにご協力を賜り開催できることとなりましたこと、深く感謝申し上げます。

今回のテーマは「お客様が満足するエステティック」としてあります。エステティック業界の「お客様」は大きく変化しています。高齢化、そして東京オリンピック・パラリンピックにより、より多くの外国人と多様な背景をもった方々がサロンを訪れることとなります。

高齢のお客様に満足していただく、訪日外国人に満足した体験を提供する、多様なお客様に適切なサービスを提供する、ことが必要です。またそこでは、徹底した衛生管理とコンプライアンスのうえで安心してエステティックサービスを受けて頂ける環境を整える事が大変重要であると考えます。

今回は、「エステティシヤンの格を高める必須知識」と題して、関東裕美理事長により知識習得がエステティシヤンの品格を高めていくことについて講演頂きます。また、特別講演として、エステティシヤン自身の体を守り、お客様を守るための衛生管理について、医学的見地からの衛生基準について講演を予定しております。

パネルディスカッションでは、現在第一線で活躍されている、これからの業界を担うエステティシヤンの皆様により、知識と顧客満足について、議論を頂きます。

特別講演の二つ目は、公益財団法人日本エステティック研究財団と一般社団法人日本エステティック協会の共同研究によるエステティックの「リラクゼーション効果の検証結果」について発表を行います。本研究では、多くのエステティシヤンの協力により、貴重なデータ収集を得ることができました。

エステティックにおいて、このような研究成果をエビデンスとして積み上げ、論文として発表することはとても重要です。将来、さらにエステティックが社会から信頼を得ることに貢献する発表の場として、本学会を主催できることに感謝申し上げます。

最後に、本学会の企画やプログラム作成に関しましては、公益財団法人日本エステティック研究財団関係団体の皆さま、評議員・役員の皆さまをはじめ多くの方にご支援を賜りました。この場をお借りして篤く御礼申し上げます。

秋のひと時、東京にお出かけいただき、ぜひ本会を盛り上げていただけます様、お願い申し上げます。

以上

芝山みよか記念教育講演

エステティシヤンの格を高める 必須知識

関東 裕美 公益財団法人日本エステティック研究財団理事長



豊かな生活に伴って私たちの生活は心身共に満たされるようになったはずではあるが、現代社会では各自を取り巻く環境に順応できないとストレスに心身をすり減らしてしまうこともある。心の不安定さが消化不良、月経不順、皮膚の荒れを招くこともあるし、皮膚疾患や内臓疾患を誘発することもある。癒しが必要な現代人にとってエステティックサロンは心和む時間と空間を提供してくれる場所であって欲しい。慢性疾患や難治性疾患の治療中だとしても、良いエステティシャンとの出会いは生きている感覚を実感し、治療意欲を高めることにもつながるかもしれない。厚労科研費の調査研究として日本エステティック研究財団では、エステティックサロンの環境衛生調査、使用されている化粧品や機器の安全性調査を継続し、その調査結果をホームページで公表し学術会議でも発表してきた。有能なエステティシャン達は毎年開催される学術会議に参加して日本のエステティックの現状調査の発表を聴き、同時に開催される有意義な講演やシンポジウムを聴いて自身の糧として成長してくれていると確信している。高齢化社会であり疾患社会でもあり、顧客の体調を推察して臨機応変にエステティック施術の調整ができるような品格のあるエステティシャンの育成を日本社会は求めている。今年の講演では昨年度調査研究の発表をしながら、皮膚科医として専門に行っている化粧品による皮膚障害について紹介する。

エステティックの現状について医療者達にも周知させるべきと日本皮膚科学会、日本美容皮膚科学会で続けて研究財団理事長として教育講演依頼を頂戴した。特に日本美容皮膚科学会では美容脱毛と医療脱毛の違いについて、過剰広告の抑制について話題提供をされた。我々日本エステティック研究財団はサロンに出向いての実態調査、美容機器の調査を、今後も可能な範囲で継続しながら、エステティシャン達への啓発教育、指導をする使命を担っていると感じている。安全で心地よい施術を提供することを共通認識として持ち、正しい知識を得ることにより、誇りをもって施術ができる品格のあるエステティシャンが増えてくれることを願って講演を進めたい。

略 歴

| | |
|--|---|
| 1980年 東邦大学医学部医学科 卒業 | 2005年 東邦大学医学部皮膚科学第一講座 講師 |
| 1982年 東邦大学医学部皮膚科学教室 助手 | 2007年 東邦大学医学部皮膚科学第一講座 准教授 |
| 2000年 米国Cincinnati大学皮膚科学教室留学 リサーチフェロー | 2012年 東邦大学医療センター大森病院 スキンヘルスセンター長、同臨床教授 |
| 2003年 東邦大学医学部皮膚科学第一講座 助手 | |

資格: 日本皮膚科学会専門医、産業医、日本美容皮膚科学会理事、日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会評議員、
日本化粧品学会評議員、公益財団法人日本エステティック研究財団理事長、公益社団法人日本毛髪科学協会理事
専門領域: 皮膚接触アレルギー

特別講演

「自分を守る お客様を守る衛生管理」 ～「エステティックの衛生基準」改訂のポイント～

館田 一博 東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授



衛生管理は、お客様と施術者を感染症から守るために必要です。

感染症は、インフルエンザやウイルス性胃腸炎、風疹などのことをいい、エボラ出血熱のように致死率が高いものもあります。感染症の原因は、病原性を持つ細菌やウイルス(病原微生物)が体内に入り増殖することで発症します。そして、増殖した病原微生物は他の人に移っていきます。

最近では、行政、民間などが行う啓発活動等により、感染症の知識が広まってきており、医療機関はもとより、スーパーマーケットの出入り口でも速乾性手指消毒剤が常備されていることなどからも関心の高さがうかがわれます。

病原微生物は、直接接​​触のみならず飛沫や空気を介してすることでも広がって行きます。エステティックでは、不特定多数のお客様の皮膚に直接触れるサービスを提供しており、病原微生物がお客様から技術者へ技術者から他のお客様へと広まりやすい環境ですのできちんとした対処が必要です。

感染症防止に有効なのは、衛生管理です。衛生管理の基本は、整理、整頓、清掃、清潔、躰です。肉眼では見えない病原微生物が対象ですので、常に病原微生物が存在することを前提に掃除し、消毒し、手洗いなどを行っていくことがポイントになります。さらにエステティックにおいては、お客様側から見れば「素肌を技術者に触らせる」ということで施設の清潔感は必須事項であり、水回りが不潔だったり床に汚れがあったりすると技術がどんなにうまくてもお客様は再訪をためらってしまいます。公益財団法人日本エステティック研究財団「エステティックの衛生基準」では、衛生管理の標準的な方法をわかりやすく定めています。

「エステティックはお客様の皮膚に直接触れる仕事」であることを十分に認識して「うつさない」「うつらない」を実践し、「エステティックの安心・安全」を目指しましょう。

略 歴

| | |
|---------------------------|------------------------------------|
| 1985年 3月 長崎大学医学部卒業 | 2005年12月 東邦大学医学部微生物・ 感染症学講座 准教授 |
| 1985年 6月 長崎大学医学部第二内科入局 | 2011年 4月 同講座 教授 |
| 1990年10月 東邦大学医学部微生物学講座 助手 | 東邦大学医療センター大森病院 感染管理部部長 |
| 1999年10月 米国ミシガン大学呼吸器内科に留学 | |

関係学会等… 日本感染症学会理事 理事長(2017-)、日本臨床微生物学会 理事長(2018-)、
ICD協議会 議長(2017-)

特別講演

「リラクゼーション効果の検証結果について」

塚田 弘行 A.C.E.ビューティーサイエンス研究所 代表



エステティック施術の心身への影響を心理生理学的に評価するにあたり、サロンでのリラクゼーションに関するアンケート調査(郵送)を実施した。登録サロン630件から有効回答数154件を得ることができた。

回答を戴いたサロンは、技術者数2名以下で83.3%を占め、ベッド数は2台以下で74%を占め、殆どが小規模だった。来店するお客さまのエステティックの目的を聞くとリラックスを目的とし、フェイシャルとボディで110件(71.4%)とリラクゼーションのニーズの高さが窺われた。お客さまのニーズに応えるかのようにサロンで用意しているリラクゼーション目的のフェイシャルマッサージが9割であった。

エステティックに於けるフェイシャルマッサージ(以後マッサージと記す)のリラクゼーション効果に関する先行研究の一つに阿部恒之のスキンケアの心理学(文化・社会と化粧品科学、第2章、化粧心理学、(株)薬事日報社)がある。そこでは、美容技術者が行う美容マッサージには特徴的な変化を示すとしている。マッサージによる挙動を、交感神経-副腎髄質系の指標である心拍率、HPA系の指標である唾液中のコルチゾールの変化を測定すると、「し」の字型を描くというものである。

我々は、心身のリラクゼーションを目的としたマッサージを施し、心理的側面からVAS(Visual Analog Scale)とPOMS(Profile of Mood State)を用い、生理指標面は心電図、サーモグラフィの計測を行った。

施術前と施術後の心理的变化は、VASで「気分」「疲労」「ストレス」「緊張」が軽減され、POMSでは活気-活力が高まりポジティブな感情を感じる傾向が示唆され、ネガティブな感情は軽減する傾向を示していた。生理的变化は、心電図の時間領域解析からR-R間隔が大きくなる傾向がみられ、気持ちが「ゆったり」したと考えられる。また、FFTによる周波数解析から高周波数成分が高まり、副交感神経の働きが高まり、リラックス感が得られたものと考えられる。

略 歴

| | | | |
|-------|---|-------|--|
| 1965年 | 東京都立化学工業高校卒業 | 1998年 | ビューティサイエンス研究所 美容ソフト2G 課長 |
| 同年 | 資生堂化学研究所 1課 「基礎化粧品開発」「有用性研究」 | | 「エステティック開発」「メンズソフト開発」 |
| 1983年 | 「医薬品開発」 | | 「未着手領域の研究」 |
| 1989年 | ビューティーサイエンス研究所 ヒューマンサイエンス課 「エステティック研究」「肌生理研究」 | 2005年 | 退職 |
| 1995年 | 製品開発研究所 有用性G 参事 「有用性研究」「スキンケア・ボディケアソフト開発」 | 2019年 | (株)シーエスラボ 技術顧問 (株)未来 商品開発顧問 (株)ピエール ファーブル ジャパン アドバイザー 韓佛化農(韓国)化粧品開発のコンサルタント 広州九美仟惠生物科技有限公司(中国) コンサルタント |

パネルディスカッション

「いま、知っておくべき知識とは？」 ～高齢化、国際化、多様化の中で～

本日の学術会議は、日本のエステティック業界を取り巻く環境を軸に、「今後の業界の行方」「人材について」中期的に予想される主な社会変化で何が起り、どんな事が予測されるのか、人口、技術、市場、災害の側面から考えるべきことにアプローチします。また、高齢消費者市場の適切な理解をすることの重要性を示し、高齢化、国際化、多様性の中で何を学ばばよいのかをテーマに、パネラーの皆様にディスカッション頂きます。

ファシリテーター 久米 健市 一般社団法人日本エステティック協会 理事長

パネラー



郷 和子 エステティックバービー代表/日本エステティック協会副理事長

ごう かずこ/大手のエステティックサロンで15年勤務後、宇都宮市で独立。エステティックサロンを運営して20年。AJESTHE認定講師として、専門学校の講師として教育に携わる。日本エステティック協会メンバーシップ委員会の委員長として活動し、北関東を統括。特定非営利活動法人 日本エステティック機構、サロン認証委員会委員としてサロン認証へも積極的に取り組む。



興梠 文香 株式会社スリムビューティハウス/営業部 マネージャー/入社13年目

こうろぎ あやか/美容専門学校にてメイク・エステ・ネイルを学び、2007年に株式会社スリムビューティハウスに新卒入社。大阪・天王寺店に配属後、難波店店長に任命される。入社5年目には、大阪地域店舗を統括する総店長に昇格。2015年に東京へ転勤後、現在は新宿・銀座地域の旗艦店を担当するマネージャーとして、店舗運営からスタッフ育成まで幅広い分野で活躍中。



三谷 麗奈 技能五輪世界二位銀メダリスト/R-Bloom代表

みたに れな/平成26年3月タカラ・インターナショナルエステティックカレッジ卒業。その後、技能五輪国際大会出場。国際大会出場後は、インストラクターとして技術指導とサロン業務を行う。平成28年4月ソティスジャパン株式会社入社。ソティスサブチーフとなる。平成30年4月R-Bloom設立。その後も各種イベント、講師業等、ナカイの窓や、ラジオ、YouTubeなどでも活躍中。